

# 乱反射する鏡としてのAI

- 爆発的に進化するAIが問う社会の未来 -

## インターゼミDX班 2024年研究計画

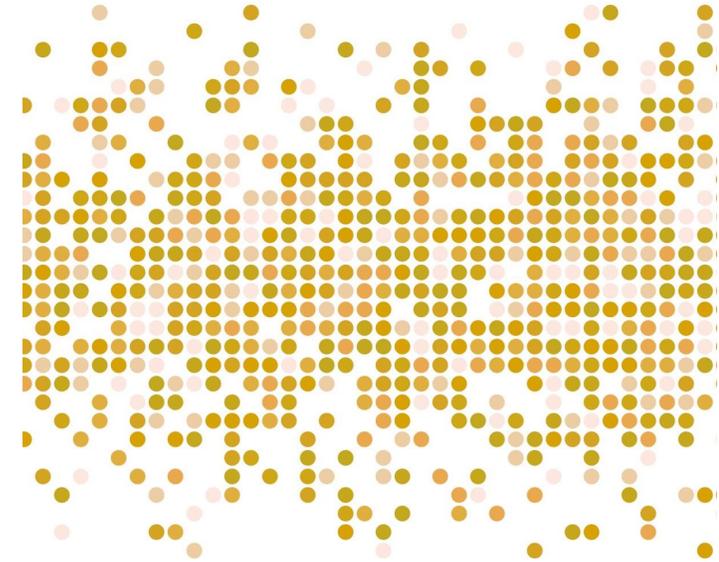
学部生 : 城田 空、日高 健多、加藤 航矢

院生 : 岸田 將之

教員 : 越田 辰宏、新井 崇弘、望月 明彦

# 1. 研究目的と背景

- 生成AIの進化により、人間と並び、あるいはそれを超えるAlternativeな「知性」の出現が現実的なものになりつつある。
- 「万物の霊長」として、自然界に君臨していると自認していた人間の立ち位置、つまり人類のアイデンティティが、その境界線を含めて揺らぎうる状況。
- これに対して100%の楽観も、100%の悲観も、人間の「知性」として正しい態度ではないと考える。Alternativeな知性であるAIが存在し得るという現実から出発し、4つの角度から、その本質的なチャレンジを見極め、今後の社会にもたらすインパクトを批判的に検討し、あるべき世界へのヒントを考察する。



## 2. 先行研究

インターゼミにおけるAI班、DX班のこれまでの研究テーマは以下の通り。

2017年度「高齢者の明日へ ～AI を活かし共生の道をひらく～」

2018年度「暮らしを助ける AI としごとを取って代わる AI」

2019年度「AI 活用の現在」

2020年度「DXによるこれからの社会変化 ～イノベーションを軸に～」

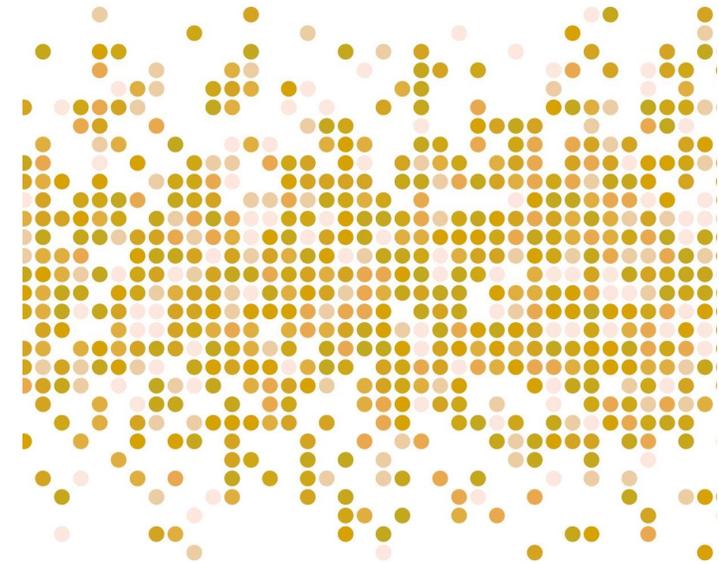
2021年度「自動運転とスマートシティ」

2022年度「教育におけるDX」

2023年度「生成 AI による社会への影響 ～ 文章生成 AI : ChatGPT による実践 ～」

これまでの研究は、「**道具としてのAI**」がもたらす機会と脅威について検討するもの。

生成AIの登場を経て「**知的存在としてのAI**」を意識せざるを得ない状況と認識し、今年度は視点をそこに移した研究を行う。

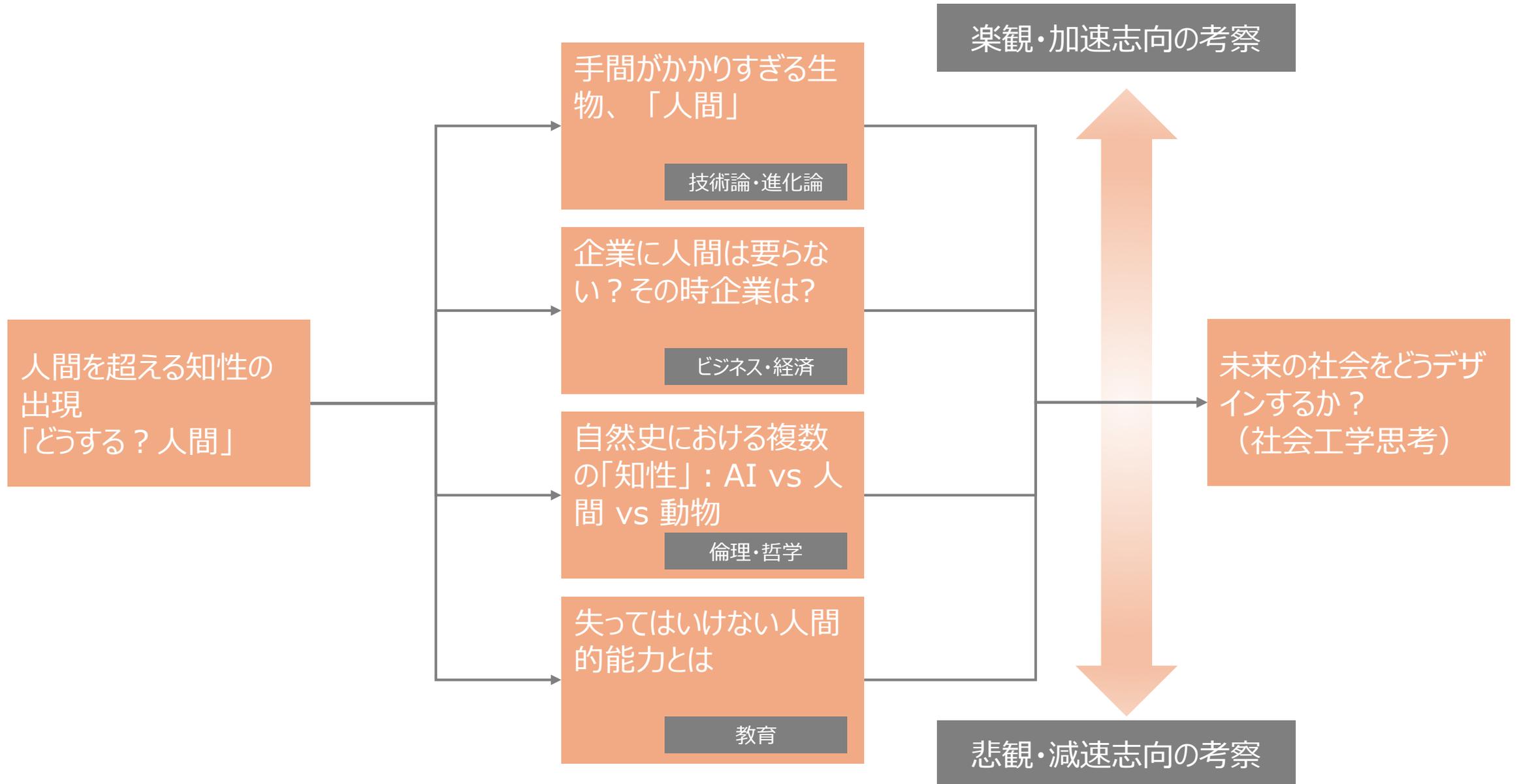


### 3. 問題意識

- ①AI・ロボティクスによる人間の能力拡張の可能性
  - 手間がかかりすぎる生物、「人間」-
- ②ビジネスにおけるAIと人間の役割
  - 企業に人間は要らない? その時企業は? -
- ③AI時代の人類のアイデンティティ
  - 自然史における複数の「知性」: AI vs 人間 vs 動物 -
- ④AI依存がもたらす人間的能力の退化
  - 失ってはいけない人間的能力とは -



### 3. 問題意識 - 俯瞰図

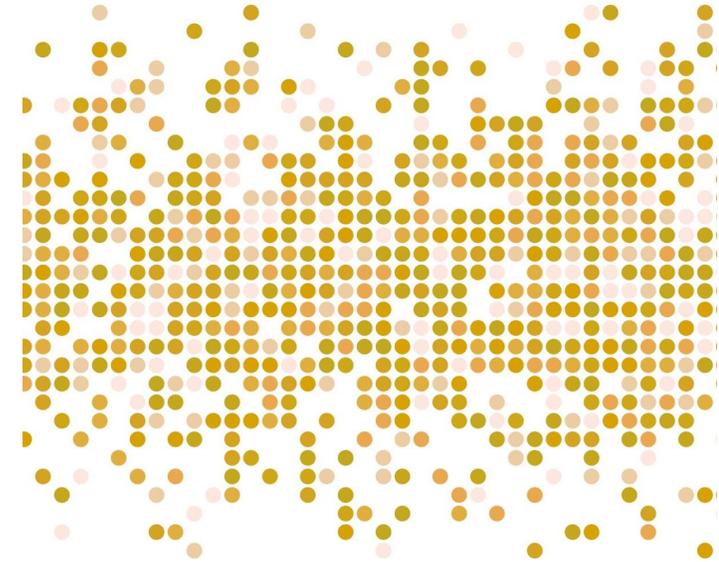


### 3. 問題意識-①

## AI・ロボティクスによる人間の能力拡張の可能性

- 手間がかかりすぎる生物、「人間」-

仮説（リサーチクエスション）	<ul style="list-style-type: none"><li>①人間は睡眠・食事等（生活）で費用と時間がかかるが、機械の肉体を手に入れることができればこれらの手間を省略できるのではないか。 →例）脳内チップ・ペースメーカー・ロボットスーツなど。</li><li>②思想は「トランスヒューマニズム（超人間主義）」に類似。</li></ul>
研究方針	<ul style="list-style-type: none"><li>①大学内の電子図書（国内外の記事・雑誌）を利用した文献研究</li><li>②フィールドワーク : AI・ロボットスーツ研究者の方々との会合</li></ul>
主要参考文献（予定）	<p>【ウェブサイト】 岩見旦, &amp; ケロッピー前田 (NA). イーロン・マスクが目論む『脳内チップで人間をアップデート』。ケロッピー前田が目撃した身体改造の最前線. CINRA. URL:<a href="https://www.cinra.net/article/202310-bmxnet_iwmkrcl">https://www.cinra.net/article/202310-bmxnet_iwmkrcl</a>. 確認日: 2024年5月31日確認</p> <p>日本トランスヒューマニスト協会 (2024). トランスヒューマニズムとは. URL:<a href="https://transhumanist.jp/%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%83%92%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%82%BA%E3%83%A0%E3%81%A8%E3%81%AF/">https://transhumanist.jp/%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%83%92%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%82%BA%E3%83%A0%E3%81%A8%E3%81%AF/</a>. 2024年5月31日確認</p>

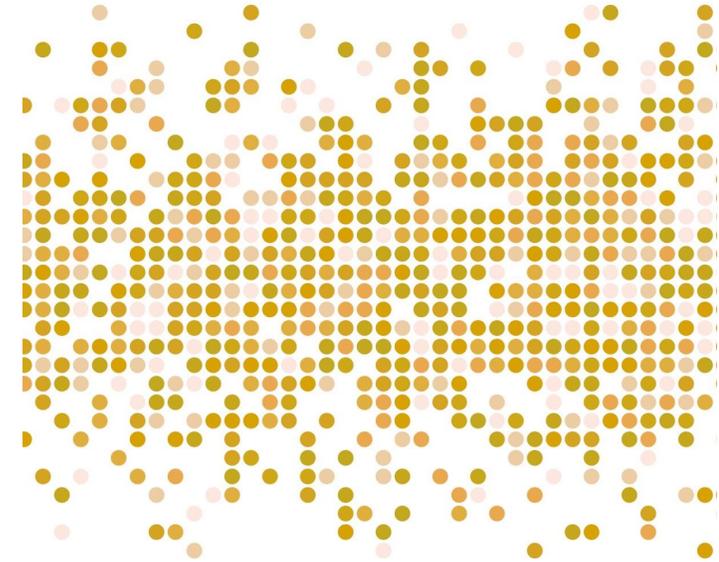


### 3. 問題意識-②

## ビジネスにおけるAIと人間の役割

- 企業に人間は要らない？ その時企業は？ -

仮説（リサーチ エスチョン）	<ul style="list-style-type: none"><li>①AIの台頭により代替される人間の仕事、社会から人間がいなくなるという現象は我々個人にどのような影響し、何をもたらすのか。</li><li>②AIと人間が共存する社会で企業がもとめられる価値とは何か。</li></ul>
研究方針	<ul style="list-style-type: none"><li>①上記論点及び周辺テーマについての文献研究</li><li>②フィールドワーク : AIの最新技術を開発している機関へのインタビュー</li></ul>
主要参考文献 (予定)	<p>【書籍】 今井翔太 (2024). 『生成AIで世界はこう変わる』 SB新書. 井上智洋 (2023). 『AI失業 生成AIは私たちの仕事をどう奪うのか？』 SB新書. シェリー・タークル (2018). 『つながっているのに孤独 人生を豊かにするはずのインターネットの正体』 ダイヤモンド社.</p>

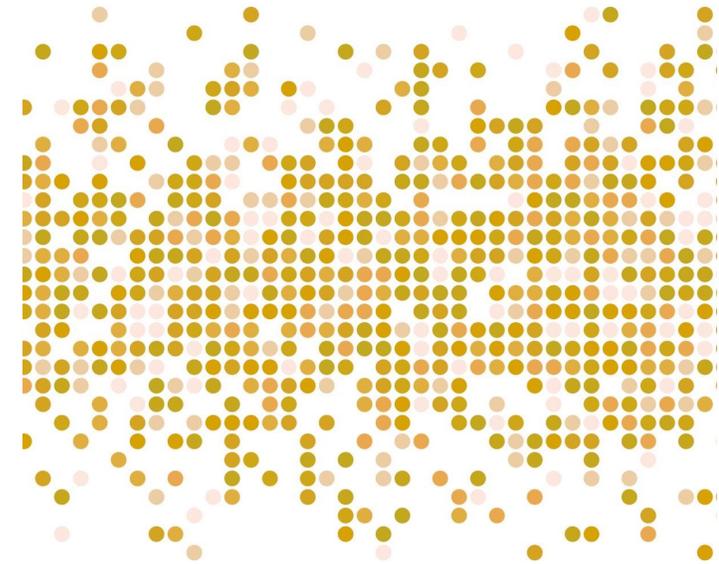


### 3. 問題意識-③

## AI時代の人類のアイデンティティ

- 自然史における複数の「知性」：AI vs 人間 vs 動物 -

仮説（リサーチ エスチョン）	<ul style="list-style-type: none"><li>①全自然史のパースペクティブにおいてはAIと人間の知性は連続的なものではないか。よってAIも主体としての意識を持ちうるのではないか。</li><li>②この視点は人間という価値の絶対性自体を揺るがし、動物界も含めた倫理的秩序の見直しを迫るのではないか。</li></ul>
研究方針	<ul style="list-style-type: none"><li>①上記論点及び周辺テーマについての文献研究（脳研究、AI研究、人類学、生物学等を参照）</li><li>②フィールドワーク：瞑想体験（心の技術である仏教の視点）</li><li>③倫理的・哲学的考察</li></ul>
主要参考文献 （予定）	<p>【書籍】</p> <p>ケリー, ケヴィン (2014). 『テクニウム——テクノロジーはどこへ向かうのか?』 みすず書房.</p> <p>トノーニ, ジュリオ・マッスィミーニ, マルチェッロ (2015). 『意識はいつ生まれるのか——脳の謎に挑む統合情報理論』 亜紀書房.</p> <p>ゴドフリー＝スミス, ピーター (2018). 『タコの心身問題——頭足類から考える意識の起源』 みすず書房.</p>

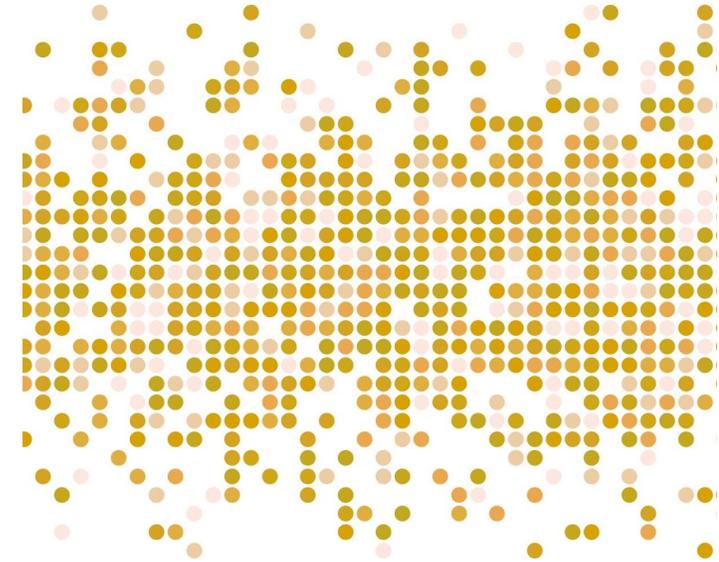


### 3. 問題意識-④

## AI依存がもたらす人間的能力の退化

- 失ってはいけない人間的能力とは -

仮説（リサーチクエスション）	<ul style="list-style-type: none"><li>①AIの発展により、真に人間としての能力（思考力・言語能力・コミュニケーション能力）が下がっているのか。</li><li>②上記を踏まえた教育・仕事等の各場面においてAIによる効率化が、社会全体に与える影響について光と闇の面から考察する。</li></ul>
研究方針	<ul style="list-style-type: none"><li>①上記論点及び周辺テーマについての文献研究</li><li>②フィールドワーク：AI研究者へのインタビューとディスカッション。AIによって不利益を受ける立場の人、教育者、自治体や行政府へのインタビューを予定。</li></ul>
主要参考文献（予定）	<p>【書籍】</p> <p>伊藤穰一 (2023). 『AI DRIVEN AIで進化する人間の働き方』 SBクリエイティブ.</p> <p>西村康稔 (2016). 『第四次産業革命 - ロボット、AIであなたの生活、仕事はこう変わる - 』 . ワニブックス.</p> <p>ウェイン・ホルムス, マヤ・ビアリック, チャールズ・ファデル (2020). 『教育AIが変える21世紀の学び：指導と学習の新たなかたち』 北大路書房.</p>



## 4. 活動記録

4/13新井先生、望月先生より課題認識の事例紹介。主にAIの闇にフォーカスする方針を共有。

4/20 各自の課題認識発表・討議

4/27 各自の課題認識発表・討議

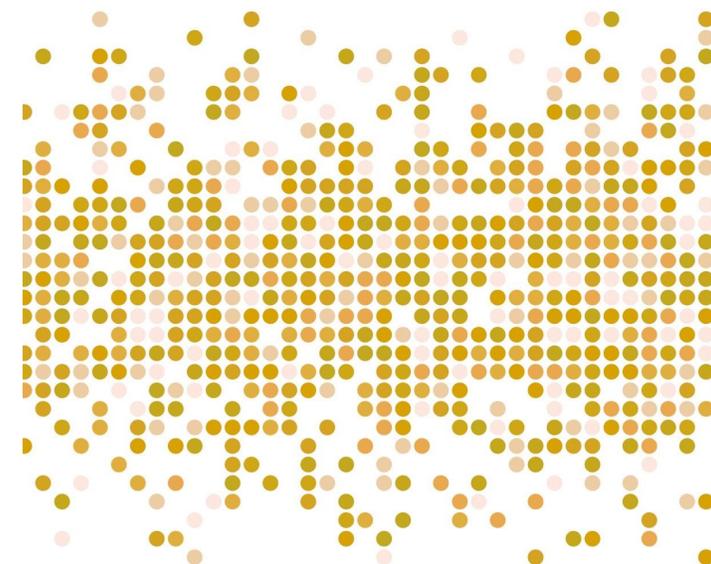
5/11 各自の課題認識発表・討議

5/18 新井先生より研究方法論紹介

5/25 研究ドラフト共有。資料作成分担実施

6/1 研究計画ドラフトブラッシュアップ

6/8 研究計画ファイナライズ。発表リハーサル。



## 5. 今後の計画

